

**大規模かさ上げの陸前高田市（岩手県） 街整えど 人は戻らない**

「1月の凍えそうな夜9時、陸前高田市の中心部。赤色灯をつけた消防車が1台、警報機を鳴らしながら巡回に出た。消防団の分団長、菅野（かんの）秀一郎（44）に見送られ、熊谷幸（こう）（34）や清水健太（30）が乗り込む。「行き止まりになっているぞ」「こんなところに道ができたんだ」。街の様子は日々変わる。ライトの先に見えるのは、「貸地」「売地」の看板だ。空き地が広がる中、道路灯だけがやけに明るい。

まだ新しい消防団の屯所には、避難誘導中に亡くなった6人の名札が、薄墨で書かれて掲げられている。市全体の犠牲者は約1,800人。あの津波でまるごと流された街の跡に高さ10mの土を盛り、新しい市街地が築かれている。被災地最大の区画整理事業は、あと1年ほどで完成する。

だが、かさ上げされた私有地31haのうち、7割余りには家や店が建つあてがない。3年前、復興の象徴でもある大型商業施設ができたが、周りには居酒屋や事務所など、70軒ほどが集まるだけだ。住宅の明かりは10軒もない。

**沿岸部の人口 約8万2千人減 東日本大震災後 歯止めかからず**

「東日本大震災で被害の大きかった岩手、宮城、福島県の3県沿岸部の35市町村の人口は震災前に比べて約8万2千人減っている。仙台市や周辺3市町は計約5万2千人増えたが、残る31市町村では計約13万4千人のマイナスだ。沿岸自治体から内陸の都市部へ。その流れに歯止めはかかっている。

津波と東京電力福島第一原発事故で被災した沿岸部などの42市町村について、朝日新聞が、震災前の2010年10月の国勢調査と20年1月現在の推定人口を比較した。全域が避難指示区域となったことなどから推計人口を算出していない福島県の7町村は除いた。

集計によると、減少率が20%を超えたのは9市町村。津波で大きな被害を受けた宮城県女川町（42.1%）や同県南三陸町（35.9%）、原発事故の影響が残る福島県川内村（34%）の3町村は30%を超えた。国立社会保障・人口問題研究所の推計などによると、20年後の2040年には、震災前の半分ほどに縮むところも少なくない。

**【被災3県沿岸部の震災前後の人口】**

	2010年	2020年	10年間の増減
岩手県	27万4,086	23万2,876	▼4万1,210
宮城県	170万8,599	169万8,115	▼1万484
福島県	52万3,397	49万3,227	▼3万170
<b>3県沿岸部の計</b>	<b>250万6,082</b>	<b>242万4,218</b>	<b>▼8万1,864</b>

（単位は人。▼はマイナス。2020年の推計人口を出していない福島県の7町村は除く）  
（「朝日新聞」20年2月17日付け）



【土地区画整理事業をしたが、人が戻らない旧市街地（陸前高田市）】



【東日本大震災津波伝承館（陸前高田市）】

【桜を見る会 のお知らせ】

◆4月11日（土）、12日（日）、18日（土）、19日（日） こちら福島において、上田主催の【桜を見る会】を開催します。興味のある方は、連絡してください。